

豊田佐吉記念館（静岡県湖西市）

—日本の産業の原点を訪れて—

社団法人中部開発センター

企画事業部 折戸厚子

新しい観光のあり方“産業観光”が、中部圏において積極的に進められています。“産業観光”は、産業の内容を対象とする観光で、生活の中の商品・サービスが提供されるまでに、どのような歴史や技術があるのかを発見し、体験する知的好奇心にあふれた観光です。

具体的には、製造業の工場見学や、伝統産業の体験プログラム、企業博物館などがあげられます。こうした施設を訪ねる機会は、従来から社会見学や企業視察などがありましたが、特定の団体や目的に限らず、個人客や家族客などの一般観光客でも楽しめるよう門戸を広く開放していこうとするところに“産業観光”の特徴があります。

今回は、静岡県湖西市にある豊田佐吉記念館を紹介します。



豊田佐吉記念館入り口

トヨタグループ創業の地の記念館

トヨタ博物館や産業技術記念館など、トヨタグループが運営する博物館は、愛知県内に数多くありますが、その中で唯一、愛知県外にあるのが「豊田佐吉記念館」です。

日本初の動力機械、自動織機の生みの親であり、トヨタグループの創業者である豊田佐吉は、現在の静岡県湖西市に生まれました。その生誕地は、郷土出身の偉人ゆかりの地として長く地元で親しまれていましたが、佐吉の生い立ちなどに関心を

持つ人が全国から訪れるようになったため、生誕120年となる1988年から、佐吉の生涯をわかりやすく見学できる記念館として、一般公開されるようになりました。

発明王 豊田佐吉の生涯

1867年（慶応3年）に生まれた佐吉は、父の後を継ぎ大工になりましたが、明治という国をあげて近代化への努力が払われる時代にあって「世のためになる事業がしたい」と模索するうちに、母

が手織機で布を織る重労働に苦労している姿を見て、織機の発明を志すようになります。

1890年(明治23年)、東京で内国勸業博覧会に出展されていた外国製織機を見て感銘を受けるとともに、「外国に負けない日本製の機械を発明したい」と奮起し、独力で「豊田式木製人力織機」を完成させ、初めての特許を取得しました。

さらに、人の手ではなく機械の力を利用した動力織機の研究開発に乗り出し、1896年(明治29年)、日本初の動力織機「木鉄混製動力織機」を完成。従来の人力織機ではできなかった均一な品質の布が作れるようになりました。価格もそれまで独仏から輸入されていた動力織機に比べて、数分の1ときわめて安く、中小織布工場を中心に急速に普及し、その近代化に貢献しました。

その後も発明・改良に没頭し、生涯を通じて119件にものぼる特許を取得しています。なかでも、1924年に完成させた「G型自動織機」は、世界一の織機と評価され、当時、世界最大の繊維機械メーカーだったイギリスのプラット社に10万ポンド(現在の日本貨幣価値に換算して100億円)で特許権を譲渡し、日本の技術者に自信を与えました。こうした佐吉の発明によって、日本の基幹産業であった紡績業及び繊維産業は、世界的レベルへと躍進を遂げました。

佐吉の「研究と創造の精神」は、やがて長男・喜一郎による国産自動車の開発へと受け継がれ、自動織機の発明にとどまらず、自動車をはじめと



記念館にある豊田佐吉胸像。佐吉の妻である浅子夫人が作製している

する現在のトヨタグループの振興、さらには日本の産業の発展へとつながっていきました。

発明品の展示や生家の復元

記念館入り口には、佐吉が40歳の頃に両親のために建てた母家がのぞきます。実際に佐吉と家族が住んでいた家であり、現在も田園風景の中のお家を訪ねるような穏やかな雰囲気です。

料金は無料で、台帳に名前を記入して入場します。入り口からすぐの展示室には、外観だけでなく、実際に布を織れるように復元した「豊田式木製人力織機」「木鉄混製動力織機」「G型自動織機」などの発明品や、特許証や卒業証書など、佐吉ゆかりの品々が展示されています。

入り口での印象より、敷地ははるかに広く、母屋の奥の裏山まで見学コースに含まれています。

佐吉の父親が植えたひのき林や、みかん畑の間を通る裏山の散策路をぐると一周すると、途中には、佐吉が父親に隠れて研究をしていた納屋や、山の清水を生活用水として使うために設置したろ過装置付き井戸などがあり、発明家・佐吉の在りし日を垣間見られます。

頂上は、晴れた日には富士山が見られる展望台と東屋になっています。1990年には、裏山のふも



最初に特許を取得した「豊田式木製人力織機」の復元。実際に布を織る体験もできる

とに、佐吉とその兄弟や、長男・喜一郎が生まれた佐吉の生家が復元されました。茅ぶきの素朴な建物は、江戸時代後期の農家の形を残す建築史からみても貴重な文化遺産です。

また、集会室や休憩室では、佐吉の生涯を描いた映像を観ることもできます。

施設の概要

■住所 湖西市山口 113-2

■電話 053(576)0064

■開館時間

4月1日～9月30日 AM9:30～PM5:00

10月1日～3月31日 AM9:30～PM4:30

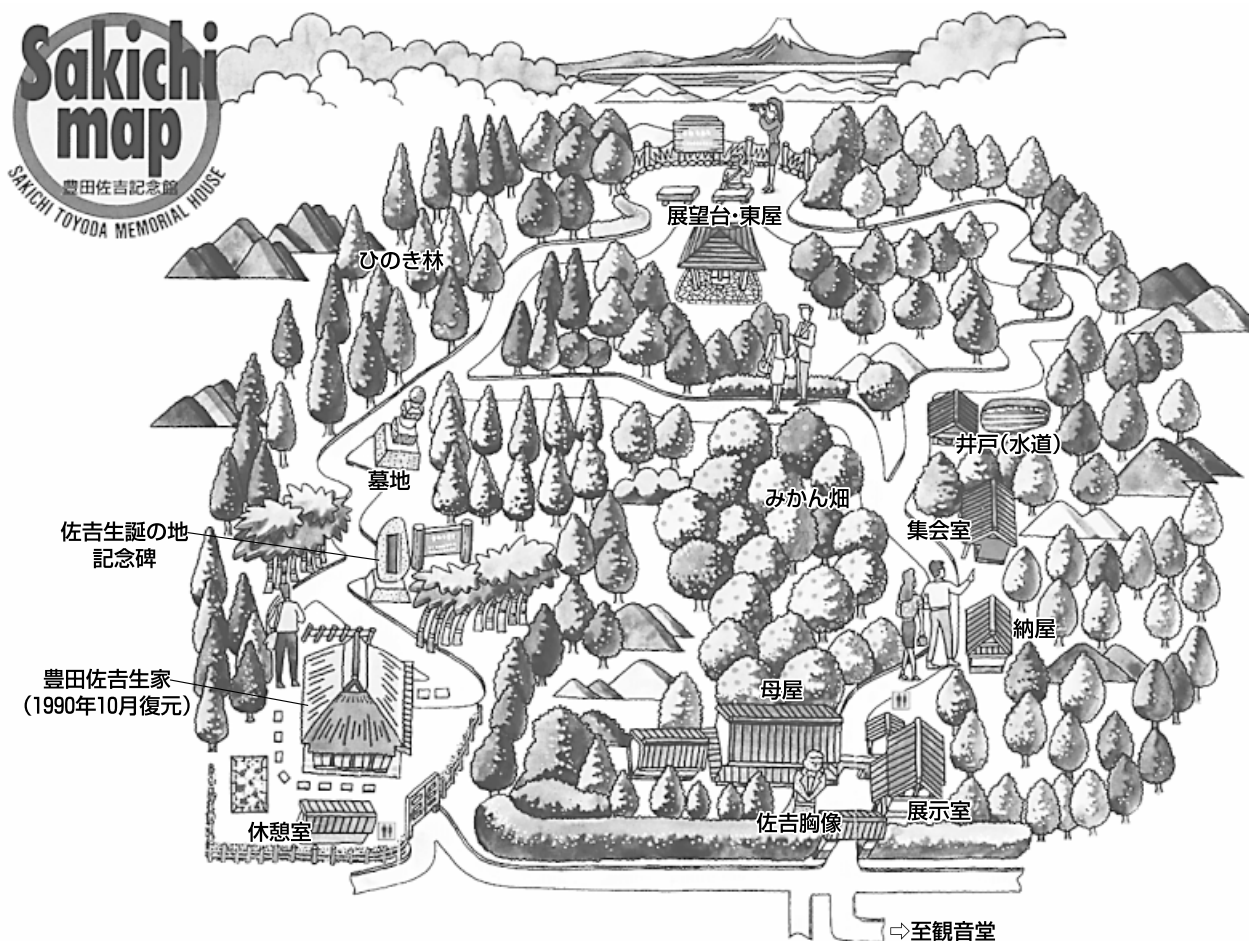
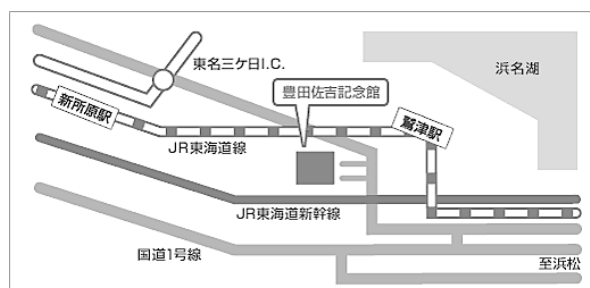
■休館日 毎週水曜日

(但し、水曜日が祝日の場合は翌木曜日が休館日)

■入場料 無料

■交通 JR東海道線鷺津駅より2km

■アクセスマップ



豊田佐吉記念館内 地図

インタビュー



豊田佐吉記念館事務長 神先忠氏（右）
産業技術記念館館長代理 吉岡茂之氏（左）

—記念館が開館した経緯についてお聞かせください。

もともと豊田家の所有する普通の個人宅だったのですが、佐吉の生涯に興味を持つ方たちが、わざわざやって来て、特に何もないけれど入って見ていくというふうになっていました。

佐吉の生誕120年にあわせて、(株)豊田自動織機が、最初の発明品である豊田式木製自動織機を復元するという事業を行いましたので、それを契機に、屋敷内を整備し、グループ各社の協力を得て、1988年から記念館として開館することになりました。

—主な入場者についてお聞かせください。

1日平均80人、年間約2万4,000人の入場者があります。新入社員の研修など、トヨタの関連会社からの入場者が全体の3分の1ほどです。トヨタ関係に限らず、企業の方の見学が多いのも特徴だと思います。トヨタの源流や佐吉の生涯に興味を持たれる方が、北海道から九州、沖縄まで全国からいらっしゃいます。

こじんまりとした記念館ですが、50人ほど入れる集会室があり、バス1台分の団体でしたら、対応できるようになっています。

—見学方法についてお聞かせください。

裏山の散策路は、歩くだけなら大人の足で、15



復元された佐吉生家。内部では当時の生活用具などが展示されている

分ほどのコースで、施設をじっくり見て歩くと40分ほどの所要時間になります。それに、集会室や休憩室で佐吉の生涯についての映像を見ていただくというのが見学のパターンになっています。

—記念館の施設をご紹介します。

できるだけ当時の姿のままで保存していくことを方針としています。佐吉の生まれた家については、元のは1974年頃に解体されてしまい、記念館が開館した頃にはすでに残っていませんでした。

そこで、近隣に残っていた当時の家屋の2軒を使って、保存状態の良い材料を抜きだして、1軒の家として復元しました。図面などは残っていませんでしたが、江戸時代中期から明治にかけてのこの地方の民家は、どこも同じような形をしていて、案外、スムーズに復元できました。四間取り（よつまどり）と呼ばれる、4つの部屋で「田」の字になった簡素ないわゆる庶民の家です。

母屋は1907年、佐吉が40歳のときに両親のために建てた家で、今年でちょうど100年になります。しっかりとした柱や梁が組み合わさっていて、釘を使わない工法で建てられています。最近、耐震強度について調べてもらったところ、ほとんど問題がありませんでした。100年前の当時、それなりに力を入れて作られている建物ようです。現在、これだけの家はなかなか無いと思います。

その他、納屋は生家の近くに建てられていたの

ですが、裏山の散策路の途中に移しています。この2階の屋根裏で、佐吉が父親に隠れて発明の研究を続けており、いわば、トヨタグループの最初の研究開発室ともいえます。

また、佐吉が、母屋の生活用水として使っていた水道施設があります。これは、裏山にパイプを通し、小石、砂などを敷いた井戸でろ過し、母屋までひいたもので、現在でも栓をひねると、ろ過された山の清水が出るようになっています。発明家の佐吉が生活の中でも、こうした工夫をしていた跡がうかがえるかと思えます。

一海外からの観光客への対応はどのようにされていますか？

日本語だけでなく、英語と中国語（北京語）の案内板とパンフレット、映像を用意しています。それを使って、個人でいらっしゃる場合でも、ある程度、自由にまわっていただけるようになっています。団体でいらっしゃる場合は、通訳が一緒にいる場合が多いのですが、もし必要な場合は、名古屋の産業技術記念館にいる通訳に応援に来てもらっています。

一湖西市や周辺の観光施設との関係についてお聞かせください。

この辺りは、静岡県ではありますが、愛知県境に近く、浜松、静岡とは、江戸時代に浜名湖の関所で分断されていたこともあり、どちらかといえば豊橋の経済圏に入ると思えます。



館内は日本語、英語、中国語で案内されている

製造業が中心ですが、周辺の観光施設には、徳川家ゆかりの本興寺や、東海道53次の宿場町白須賀宿、館山寺温泉などがあり、それなりに充実しています。最近では、国道1号沿いの道の駅「潮見坂（しおみざか）」が開駅し、地元の農産物の販売や、特産品づくりに力を入れているようです。

当館の運営にあたっては、市が協力的で、開館の2年後には、湖西市の史跡に指定されています。今年から、市庁舎内に、佐吉コーナーができ、そこでビデオを見ることができ、パンフレット等の資料が置かれるようになっています。

旅行会社が当館を観光ルートに入れることがあり、例えば、先日も徳川美術館とトヨタ会館と当館といった日帰りツアーがありましたが、トヨタ関連の博物館と、トヨタの源流である当館を組み合わせたりするようです。

一その他のトヨタ関連の博物館とは、どのように関連づけられているのでしょうか？

ここ「豊田佐吉記念館」は佐吉、喜一郎の生誕の地であり、特に佐吉の生涯を紹介しています。そして、「産業技術記念館」は、トヨタグループ発祥の記念すべき地で、佐吉から喜一郎へとつながる繊維産業から自動車産業への流れを展示しています。

「トヨタ鞍ヶ池記念館」は喜一郎の住んでいた家とともに、自動車産業の創業時を紹介し、「トヨタ博物館」では広く国内外の自動車の歴史を、「トヨタ会館」では、現在のトヨタのコーポレートメッセージを紹介しています。

こうした佐吉が発明した日本初の動力機械である自動織機が、やがて自動車につながっていくというトヨタの歴史は、日本の産業史とおおよそ合致しているのではないかと、意識しています。

一抱負についてお聞かせください。

以前は、観光といえば、温泉や見物が主流でしたが、今は自分で体験するとか、学ぶといったことに関心が移っています。当館は佐吉が何をなしてきたかを学ぶことができるという点で、そうし

たニーズに合致しているのではないかと自負しています。

また、ここは都会にある博物館や産業遺産とは、違った良さがあると思います。自然に囲まれたお家を訪ねるような雰囲気が魅力的で、東京など、都会から来られる方に非常に喜んでいただけるようです。

展望台までの標高差は40mほどと起伏があり、ちょっとした運動になりますが、ゆっくりと歩けば、さわやかな森林浴を味わえます。個人や家族で、ふらりと来ていただき、この雰囲気を味わっていただけると、ここの本当の良さがわかり、佐吉の業績に親しんでいただけるのではないかと思います。

そして、子供や若い人達が、佐吉の人生に刺激を受けて、自分のやりたいことを認識したり、将来への夢を持っていただけるようになれば、それがなによりだと思います。



裏山にはヒノキに囲まれた散策路が整備されている



佐吉の象徴的な言葉として「障子を開けてみよ。外は広いぞ」が伝えられている